

松翠会だより 第七号

平成 24 年 7 月 13 日

松翠会 会長 加藤主税
(17回生・椋山女学園大学教授)

松翠会新会員の皆様へ



会長 加藤 主税
(17回生・椋山女学園大学教授)

皆さん、松翠会入会おめでとうございます。僕は大学で言語学、英語などの講義を担当しています。学外では古い評論家、コトバ評論家として、活動しています。瀬戸高校の図書館にボクの著書60冊中40冊ほどが置いてあります。「ケーチュー」とか「死語」はボクが作った言葉です。

さて、高校での3年間どうでしたか。電車、バス、自転車などでここに通いました。3年前、合格発表の喜びから高校生活の思い出が始まりましたね。感無量でしょう。僕も50年ほど前、同じ時期、同じ高校、同じ場所で、皆さんと同じ色々な経験をしました。

我々同窓生は時間を超え、同じ立場にいた仲間ということで、皆さん方に対して特別な感を持っています。つまり皆さんのバックには会員20,000名が見守っているということです。

ギスギスとした人間関係は昔より、目立って来たような感があります。でも瀬戸高校出身(松翠会会員)という立場は、それを是正する潤滑油になります。一般に同窓会と言えば、クラス会、学年会がありますね。しかし、卒業生全体を含むのが本当の意味での同窓会です。会員としてこの松翠会を盛り立ててください。

次の言葉を送って、会長の挨拶にしたいと思います。

「情報の溢れる川、結構手ごわい。溺れないように、頑丈な体力、精神力が必要。でも無理して渡らなくてもいいかも。ずたく考えていこうや! 加藤主税」

さて、来たる10月28日(日)の総会(別掲)でお会いできることを楽しみにしています。

平成24年度松翠会総会 懇親会のご案内

日 時 平成24年10月28日(日)
午前11時受付 11時30分総会及び懇親会

会 場 パルティセと 5Fアリーナ
(瀬戸市栄町45番地 名鉄瀬戸線 尾張瀬戸駅東)

会 費 4,000円(24年卒業生は2,000円)

特 別 案 内 昭和33年卒(高校10回)、43年卒(高校20回)、
昭和53年卒(高校30回)、63年卒(高校40回)、
平成10年卒(高校50回)、20年卒(高校60回)、
平成24年卒(高校64回)

役員会より

～久しぶりに、同窓生と、学び舎での思い出を語りましょう!～
～久しぶりに、同窓生と、声高らかに校歌を歌ってみましょう!～

総会及び懇親会への多数の参加をお願いいたします。

特別案内学年へは、学年幹事から案内ハガキなどでご案内がされます。その他の学年の方々も参加できますので、ぜひ、お知り合いの方々には知らせてあげてください。

また、総会の折りに、在校生・卒業生で顕著な研究・活動実績のあった方を顕彰する松翠会賞の表彰制度がありますので、心当たりの会員を、ぜひ推薦ください。

われらが仲間

松翠会賞を授与

『灯台』

後藤 和孝君(H24.3卒業)

後藤君が描いた絵画「灯台」が、福島県で開催された全国高等学校文化祭油彩部門に愛知県代表として出品され、松翠会会則の表彰対象に該当し、松翠会総会において、後藤君に松翠会賞を授与いたしました。

副賞として寺田康雄氏作のオブジェ(「金のかほちゃ」この作品は、金メダリストの室伏広治選手に贈られたものと同一。)を贈呈しました。



『鉄の戦士』を出版

八木(旧姓:原)知子さん(11回生)

『鉄の戦士』は、大東亜戦争時に国策に従い10代の少年たちが「蒙古開拓青少年義勇軍」として渡り、多くの方々が帰らぬ人となった。実在中隊をモデルに、八木知子さんが10年間の聴き取りと調査を費やし執筆された書籍です。この出版に当たっては、瀬戸高校の恩師である故・鈴木満先生が校訂に協力されています。

(幻冬舎ルネッサンスから出版<点字本有り>)母校に寄贈されています。八木さんは現在、京都府に在住)



第7回 松翠会杯 ゴルフコンペ

(平成24年5月8日 品野台カントリークラブ)

第7回松翠会杯のゴルフコンペが、晴天に恵まれたなか開催されました。参加資格は満60歳以上のシニアだったが、全26組・男女94人が参加した。

優勝者は、磯村栄助さん(高校11回生)で、ベストスコアは、男性は大津堅悟さんの77、女性は神尾由紀子さんの97でした。



優勝した磯村 栄助さん

優勝

磯村 栄助

87 ネット71.40



2位 梶田 齋 87 71.40

3位 中條 康延 84 72.00

4位 豊田 正則 89 72.20

5位 大竹 学 91 73.00

ニアピン賞

(アウトスタート) 新見勝矢、井上守政、田公健二、川本武光
(インスタート) 中川嗣道、鈴木三枝子、服部行平、大津堅悟

ひと

“瀬戸学”を追求

山川 一年さん(瀬戸高校11回生)

略 歴

1959年 瀬戸高校卒業
1963年 愛知学芸大学(地理学教室)卒業
1963年 瀬戸高校教諭(7年間)
以後 瀬戸商業高校(13年間)・瀬戸西高校(5年間)勤務
1988—2002年 瀬戸市歴史民俗資料館館長
(長久手町史・瀬戸市史編纂委員及び執筆委員)



山川先生は、「大学を卒業したら、思いもかけなく母校に赴任を命ぜられました。」と嬉しそうに語られました。瀬戸高校での最初の仕事は、旧横山校舎から、新校舎へ後輩で教え子となる生徒達と机と椅子を運ぶことだったそうです。

様々な出会いがあったそうですが、宮石宗弘先生(後に瀬戸市歴史民俗資料館初代館長)との出会い、そして先生に惹かれ、瀬戸の郷土史調査に傾倒していかれたそうです。

瀬戸高校では「地歴クラブ」、瀬戸商業高校に転勤してからは「陶磁史研究部」の生徒達と、古墳や古窯の発掘調査に明け暮れられ、そんなライフワークが、1988年に、請われて瀬戸市(行政職)に移ることとなりました。

歴史民俗資料館を運営しながら、埋蔵文化財センターを設立され、文化財の発掘調査、瀬戸市史編纂事業も担当され何冊かの市史も執筆されておられます。

そんな経験の中でよく「あなたのご専門は?」と聴かれて、山川先生は、「瀬戸学です。」と、答えられることが多くなったとのこと。現在は、あいち海上の森での活動にも携わっておられます。

瀬戸高校では、松翠会の役員、学校評議委員として関わっていただいておりますが、『瀬戸高校創立80周年記念誌』を編纂したことが、大変だったが、母校への多少の恩返しだったかな、と感慨深く語っていただきました。

〈取材後記〉

山川一年先生は、現在、「NPO法人海上の森の会」での活動を、また先日は、瀬戸市で取組まれている陶祖800年祭の「陶祖・藤四郎フォーラム」で講演をされるなど、ご健勝で、大好きな瀬戸で活躍をされています。

訃 報

松翠会の副会長を長くお務めていただいていた、加藤光之さん(16回生)が本年3月にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

新役員加入のお知らせ

副会長の欠員に伴い、新たに加藤唐三郎さん(19回生)に副会長を、また、幹事として、宮蘭伸仁さん(31回生)、古井景さん(32回生)、水野良一さん(40回生)に加わっていただくこととなりました。